

3. 大阪城周辺地区内のエリア別の特徴

■ 各エリアの特徴

〈大阪城エリア〉

地区の核となるみどりである大阪城公園や難波宮跡公園が立地するエリア。

〈天満橋・大手前エリア〉

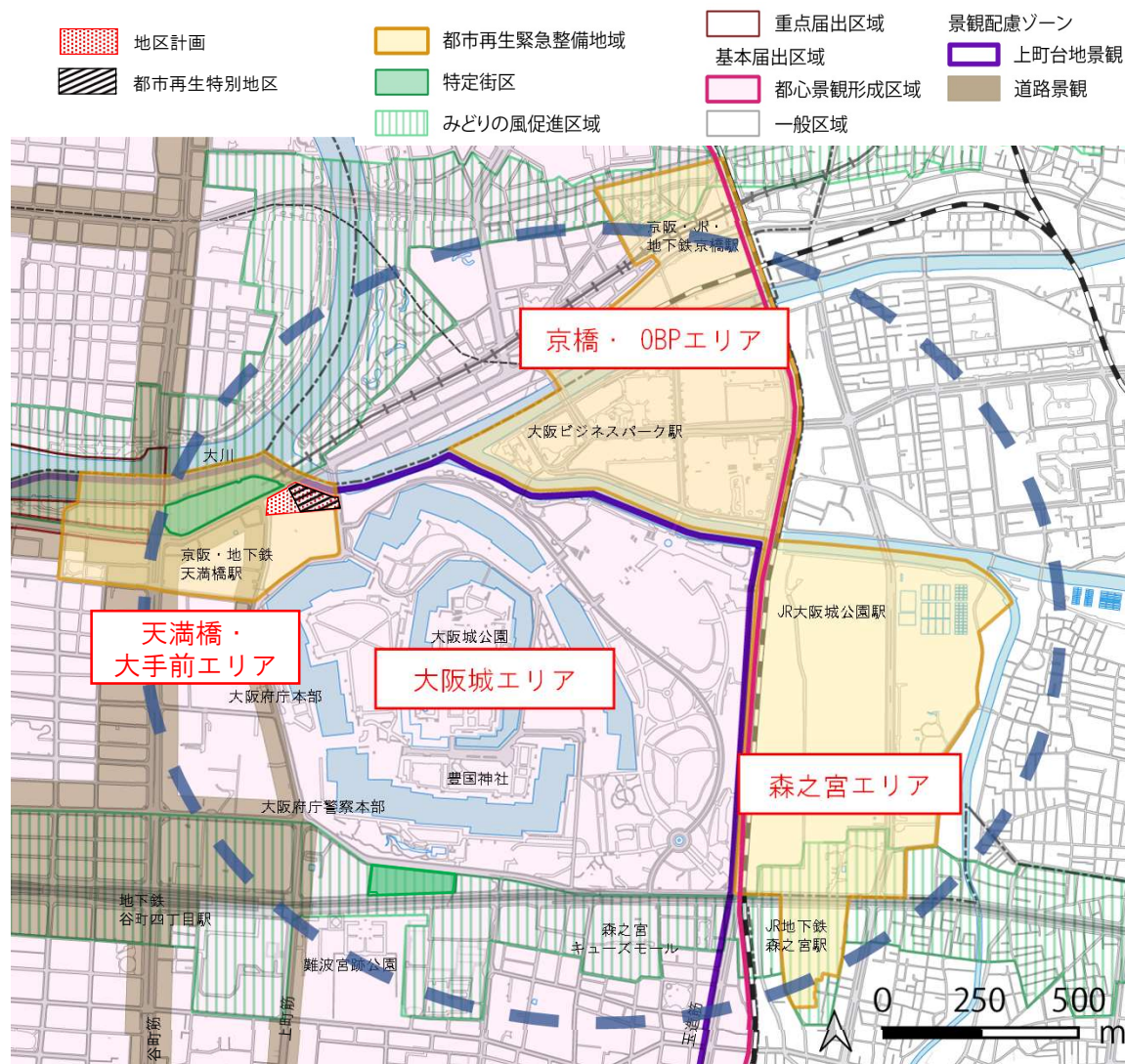
天満橋地区は大川等に隣接するエリアであり、また、大手前地区への玄関口となる地区でもある。さらに、大手前地区は、大阪城の表玄関である大手門に直結する場所に位置し、官公庁が集積しているエリア。

〈京橋・OBPエリア〉

当面のまちづくりが完成したOBP地区、これから新たな開発が見込まれる京橋駅周辺は、大阪城公園への主要動線となるエリア。

〈森之宮エリア〉

大規模な低未利用地等が存在し、複数の鉄道駅や高速道路のランプの存在により交通利便性が高く、大阪城公園と一体となった、大阪を代表する拠点となり得るポテンシャルを有するエリア。



緑化重点地区 (or 先導地区)

4. 現況・課題の整理

■大阪城周辺地区の現況・課題

エリア	まちの状況		緑の状況	
大阪城エリア	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○難波宮跡公園の整備が予定されている ○大阪の観光拠点である大阪城天守閣は、多くの観光客が訪れている ○歴史資源や、都市景観資源等が点在している ○大阪城公園はパークマネジメント組織により管理運営されている ○大阪城公園及び難波宮跡公園が広域避難場所に指定されている ○上町台地の最北端に位置し、景観計画にて上町台地景観配慮ゾーンに位置付けられている 	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪城公園、難波宮跡公園等があり、みどり豊かな空間を形成している。 ○第2寝屋川沿いにはサクラ並木が連続し、大阪城を特徴づける景観を形成している。 ○大阪城公園の周囲の道路は街路樹が連続している。 ○大阪城公園一帯には多くの樹木が植樹され、小鳥や昆虫を始め多くの生き物の貴重な生息の場となっていることから、野鳥や昆虫の観察に多くの人が訪れ、身近な自然に触れ季節を感じるができる貴重な場となっている。
OBPエリア	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○面的に開発された地区で、当面のまちづくりが完了している。 ○業務施設や宿泊施設などが集積している ○全ての区域が「都市再生緊急整備地域」に指定されている ○地区協議会により環境共生等のエリアマネジメント活動を推進している ○地権者間で建築協定を締結し、建築物の敷地や用途に基準を設けている 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで守り育ててきた<u>歴史公園の豊かな緑を維持・保全</u>していく必要がある。
			現況	<ul style="list-style-type: none"> ○寝屋川と第2寝屋川に挟まれており城見緑道など川沿いにみどりの軸が形成されている ○公開空地や建物外構部に多くの緑が創出され、街路樹の緑と一体となり、みどり豊かな街路景観を創出している

4. 現況・課題の整理

■大阪城周辺地区の現況・課題

ゾーン		まちの状況		緑の状況	
京橋エリア	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○JRおよび京阪、地下鉄の京橋駅を中心に繁華街が拡がり、多くの人でにぎわう ○河川沿いは古い住宅や業務施設が密集しており、災害時の危険性が危惧される ○大阪城公園へはデッキレベルを中心とした動線が確保されている。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○京橋公園や街路樹等が一部あるものの、建物が高密に立地しており<u>平面的な緑が少ない。</u> ○大阪城公園への玄関口として大阪第4のターミナルにふさわしい緑が感じられる駅前空間の形成が求められる。 	
	森之宮エリア	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○JR森ノ宮電車区、OsakaMetro検車場、もと森之宮工場（ごみ焼却場）、府立成人病センター跡地等の低未利用地が存在している。 ○新大学を先導役に、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまちづくりを進めている。 ○2025年4月での新大学の1期都心キャンパス（森之宮キャンパス）の開所が計画されている。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○まとまった緑化空間が少なく、今後低未利用地等の開発が見込まれることから、<u>ゆとりと質の高い緑のある都市空間の形成が必要</u>である。
天満橋エリア	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○天満橋駅周辺地区が「都市再生緊急整備地域」に指定されている 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○大川沿いの天満橋緑道と<u>背後のまちのつながりが</u>ない ○八軒家浜から第2寝屋川、大阪城の堀など<u>水辺を十分に活か</u>しきれていない 	
大手前エリア	現況	<ul style="list-style-type: none"> ○官公庁や学校等が立地する地域であるが、一部で駐車場の暫定利用など低未利用の状況である。 ○成人病センターの建て替えを中心とした大手前地区の土地利用計画（素案）が示されている。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○庁舎等の建物が高密に建てられており、<u>まとまった緑が少なく、大阪城周辺の都市環境にふさわしい官公庁街区の形成が必要</u>である 	

5. 方針の検討

■基本方針の検討

— 基本方針 —

大阪都心部最大のみどりを活かした緑景観の維持・保全と 大阪城公園を核とした周辺へのみどりの波及

大阪城

大阪の歴史・文化を感じられる
風格のあるみどり
生き物の生息・生育空間の拠点
となる自然環境豊かなみどり

- 大阪の歴史・文化を感じられる緑の維持・保全
- 難波宮跡の遺構の価値を高めるみどりの創出
- 大阪城公園の多様な生き物環境の保全

京橋

高密な都市機能における都市活動を
支える快適なみどり

- OBP地区の高質なみどりの維持・向上
- 大阪城公園へのみどりの連続性の確保

個別方針

森之宮

多世代・多様な人が集い
交流を育む豊かなみどり

- ゆとりと質の高い緑のある都市空間の形成

天満橋

水都大阪にふさわしい
水辺を生かしたみどり

- 天満橋地区の開発による河川沿いの快適で
歩きたくなるみどりの創出
- 大阪城公園へのみどりの連続性の確保

大手前

官庁街にふさわしいゆとりのある
空間と品格のあるみどり

- 大手前地区の庁舎建て替え等に伴う市民による
文化的活動や賑わいの拠点となるみどりの創出
- 大阪城公園へのみどりの連続性の確保